



2024年12月期
第2四半期(中間期) 決算説明資料

株式会社イーエムネットジャパン

2024年8月7日

CONTENTS

01

エグゼクティブサマリー

02

第2四半期(中間期) 決算概要

03

KPI

01

エグゼクティブサマリー

エグゼクティブサマリー：2024年12月期 第2四半期(中間期)

営業収益（売上高）

6.52億円

第2四半期(3カ月間)は前年同期比で増収となったものの、第1四半期の減収の影響により 前期比△4.6%

経常利益

△**0.00**億円

第1四半期の減収の影響により減益

中間配当金（1株当たり）

17.00円

前中間配当金と同額を維持

エグゼクティブサマリー : Topics

JAPAN AI株式会社との包括的業務提携

- ✓ 同社は人口知能の研究開発、人工知能に関するコンサルティングサービスを事業目的とし、生成AIサービスを展開
- ✓ 本提携により、顧客の相互送客を図り、当社は同社のプロダクトを活用することで顧客のマーケティング課題を総合的に解決し、顧客のビジネス成長を支援。また同社のプロダクトやサービスの取次販売パートナーとしても協業

ポケットーク株式会社との資本業務提携 の進捗状況

- ✓ 同社のインターネット広告の一部について当社での広告運用サービスの提供（協業）開始

株式会社ジーニーとの包括的業務提携 の進捗状況

- ✓ 同社プロダクトの代理販売の強化
- ✓ 相互送客を目的とした両社共催のセミナーの開催

02

第2四半期(中間期)決算概要

前第2四半期(中間期)比

第1四半期の減収をリカバリーするには至らず、第2四半期も減収減益

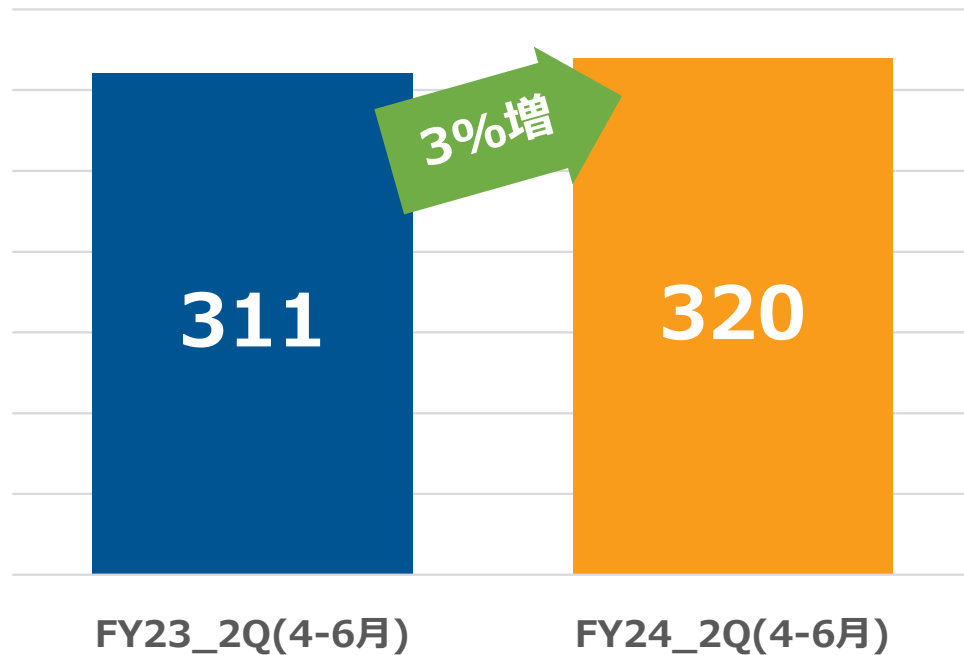
前第2四半期(中間期)比				
(百万円)	2023年12月期 第2四半期	2024年12月期 第2四半期	増減	増減率
営業収益(売上高)	684	652	△32	△4.6%
営業利益	43	△10	△53	-%
経常利益	50	△0	△50	-%
当期純利益	30	△4	△34	-%

第2四半期(4-6月の3カ月間)の業績

前第2四半期(4-6月3カ月間)比は+3%の増収。経常利益は同水準で着地

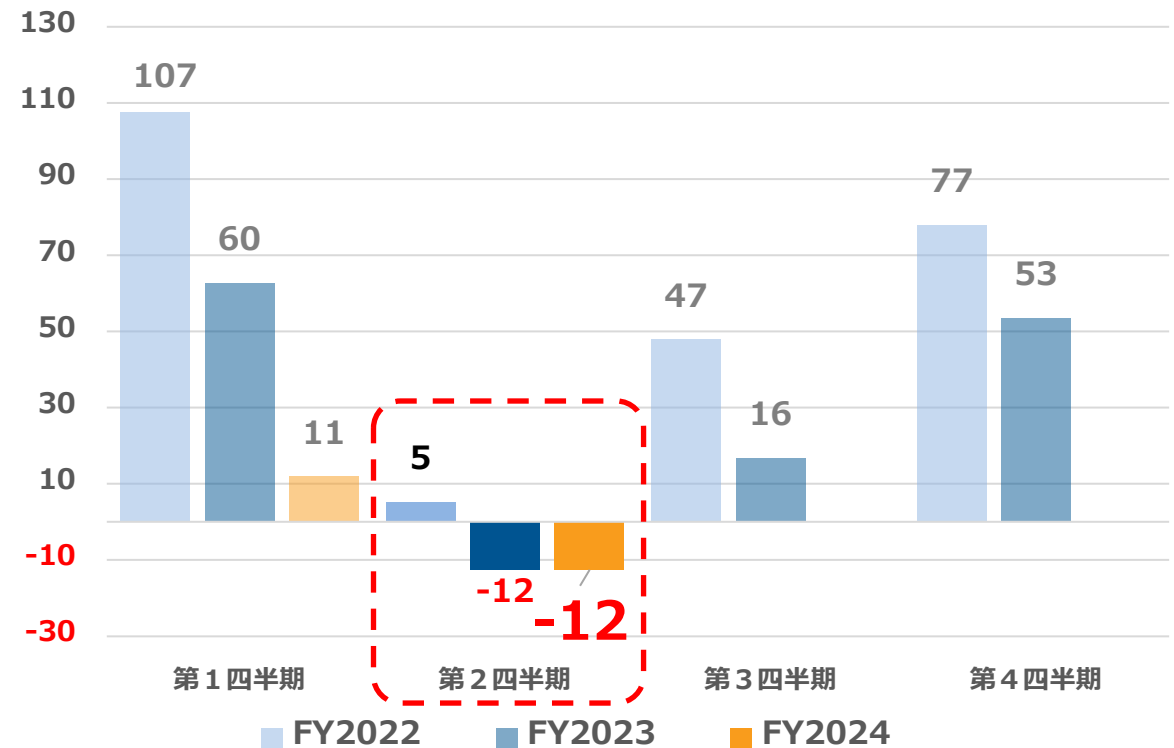
営業収益 第2四半期(4-6月の3カ月間)比

単位：百万円



四半期経常利益 (各3カ月間)

単位：百万円

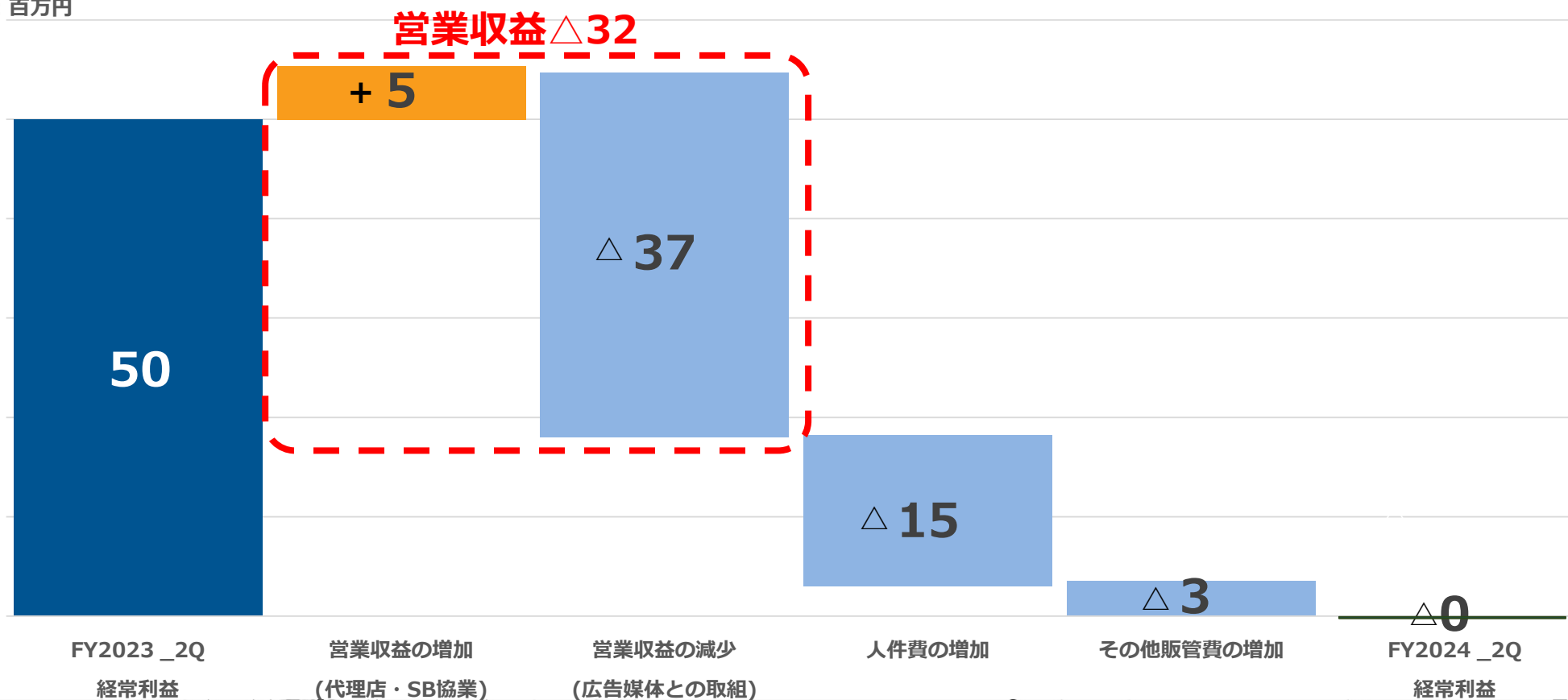


経常利益の増減要因（前第2四半期比）

広告代理店業・ソフトバンク株式会社との協業は前年同期比で増収となったが、第1四半期の広告媒体からの受託業務縮小の影響等により減収・減益

経常利益 増減要因分析（前第2四半期比）

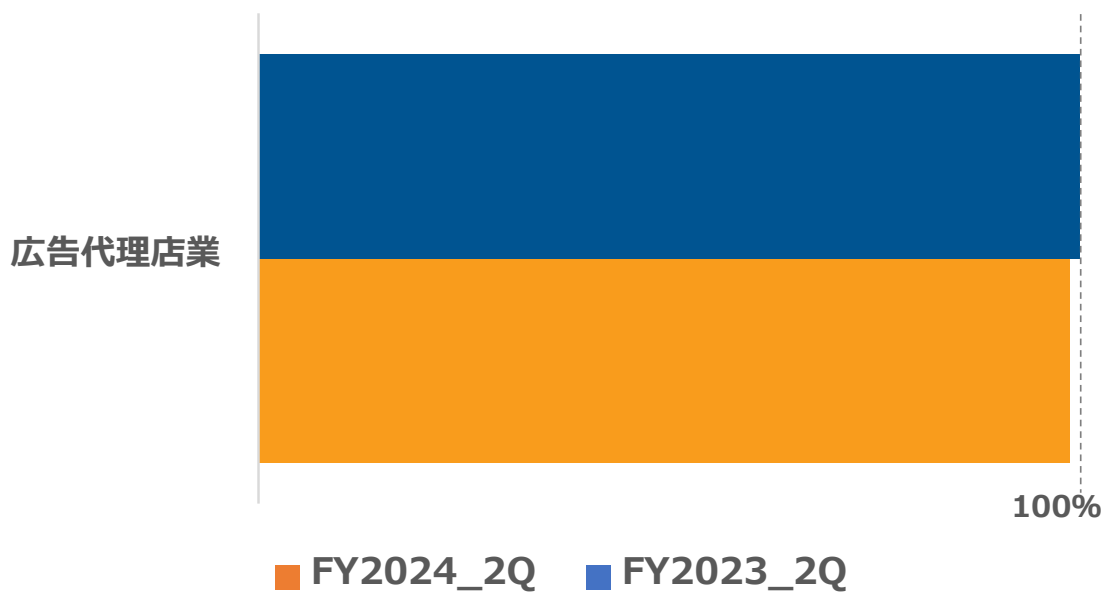
単位：百万円



事業別営業収益の増減（広告代理店業）

1 Qの減益分をリカバリーできず、第2四半期は前年同期比△1%

広告代理店業 営業収益 増減（前第2四半期比）



2Q 概況

- ✓ 1 Qの減収分をリカバリーできず、引き続き前年同期比で微減で推移
- ✓ 新規案件は、月額広告予算が数百万円から千万円以上の案件を受注できており、1 Q比で営業収益で約6倍に急増
- ✓ 1 Qに続き、解約の抑止は継続しており、前年同期比で約6割の水準で推移

今後の 見通し

- ✓ 4月以降の新規案件獲得強化を継続し、前年同期を上回る水準まで回復を目指す
- ✓ 引き続き解約抑止に注力
- ✓ 各業務提携を通じた協業の強化
- ✓ 新規顧客へのアプローチ、新サービス展開

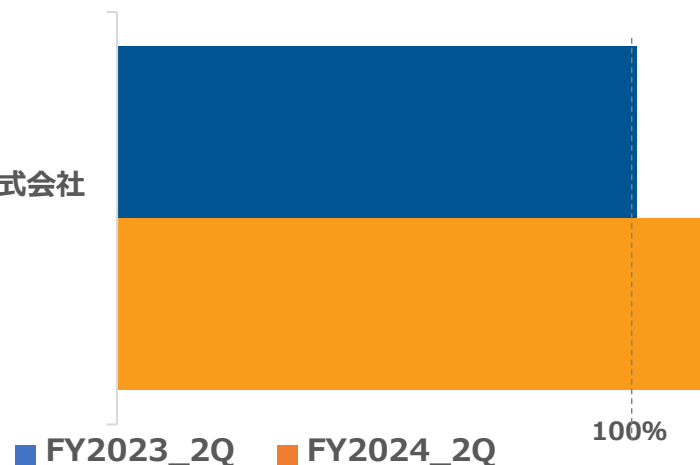
事業別営業収益の増減（ソフトバンク株式会社との協業）

第2四半期(4-6月3カ月間)は、前年同期比1.5倍の増収

ソフトバンク株式会社との協業 営業収益 増減（前第2四半期比）

第2四半期

ソフトバンク株式会社
との協業

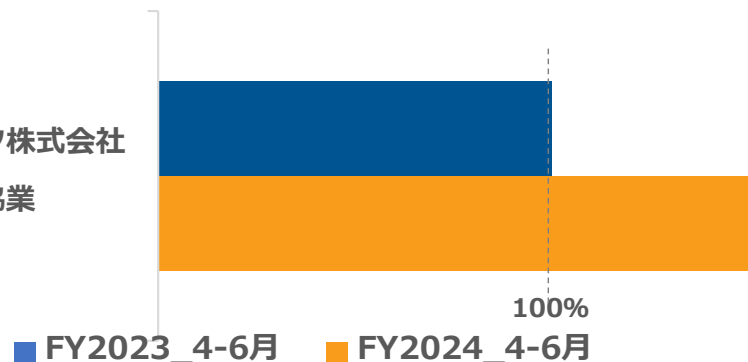


2Q
概況

- ✓ 4月から協業体制の強化等の影響により上期は前年同期比1.1倍、第2四半期(4-6月の3カ月間)は前年同期比1.5倍まで増収
- ✓ 1Qに続き業績見通しを上回って推移
- ✓ 協業案件については、引き続き広告予算の大型化（大型案件の受注）の傾向

3カ月間（4～6月）

ソフトバンク株式会社
との協業



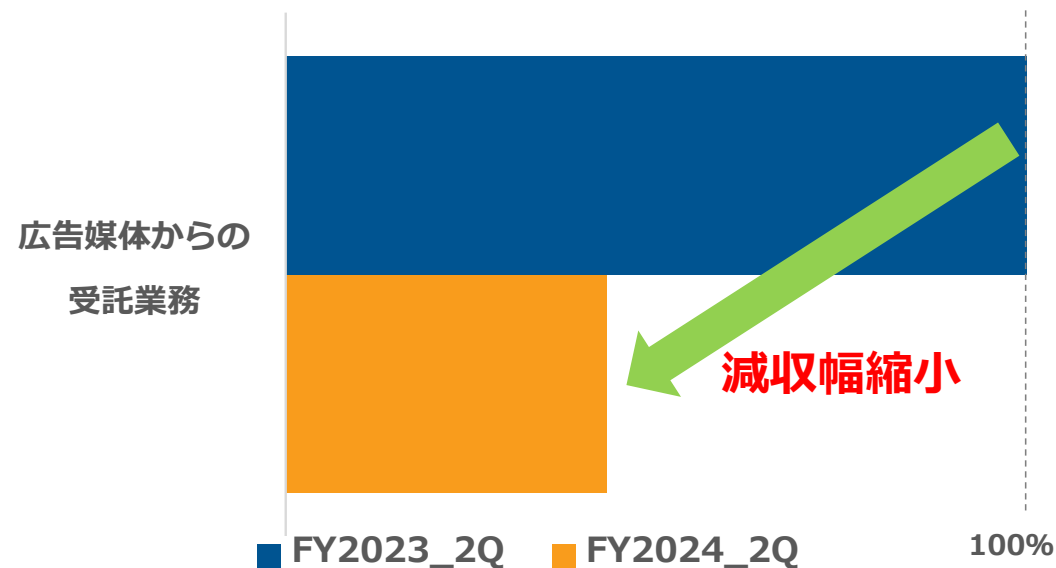
今後の
見通し

- ✓ 4月から協業体制の強化により、更なる協業を強化・拡大に向けて進行
- ✓ 3Q以降も、前年同期比を上回る水準で推移する見通し

事業別営業収益の増減（広告媒体からの受託業務）

第2四半期は前年同期比で減収幅が改善し、上期の減収幅が縮小

広告媒体からの受託業務 営業収益 増減（前第2四半期比）



2Q概況

- ✓ 2Q(4-6月3カ月間)は、前年同期比で9割程度まで回復
- ✓ 2Q(4-6月3カ月間)は、予算を上回る水準で推移

今後の見通し

- ✓ 3Q以降も2Qと同水準を見込み、前年同期比の減収幅は引き続き改善する見通し
- ✓ 受託業務領域の拡大に向けた営業強化により、2Q以上の営業収益の獲得を目指す

貸借対照表

借入金ゼロ、自己資本比率52.5%と引き続き財務安全性を維持

ポケット株式会社への出資により固定資産(投資その他の資産)が増加

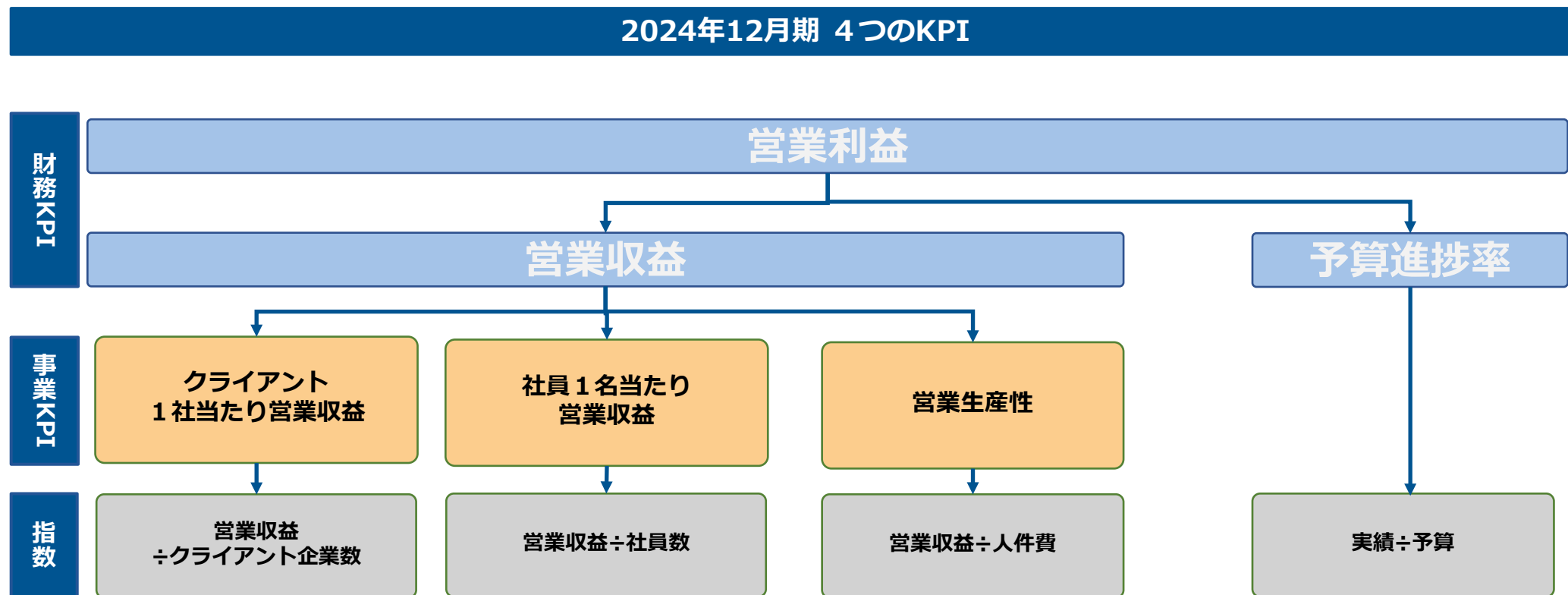
(百万円)	前期末	当第2四半期末	前期末比
流動資産	2,710	2,161	△549
内 現預金	1,416	1,010	△406
固定資産	303	531	+228
資産合計	3,013	2,693	△320
流動負債	1,417	1,101	△316
固定負債	144	177	+33
負債合計	1,561	1,279	△282
純資産	1,451	1,414	△37
負債・純資産合計	3,013	2,693	△320
(自己資本比率)	48.0%	52.5%	



03
KPI

KPI

前期から継続して4つのKPIを設定



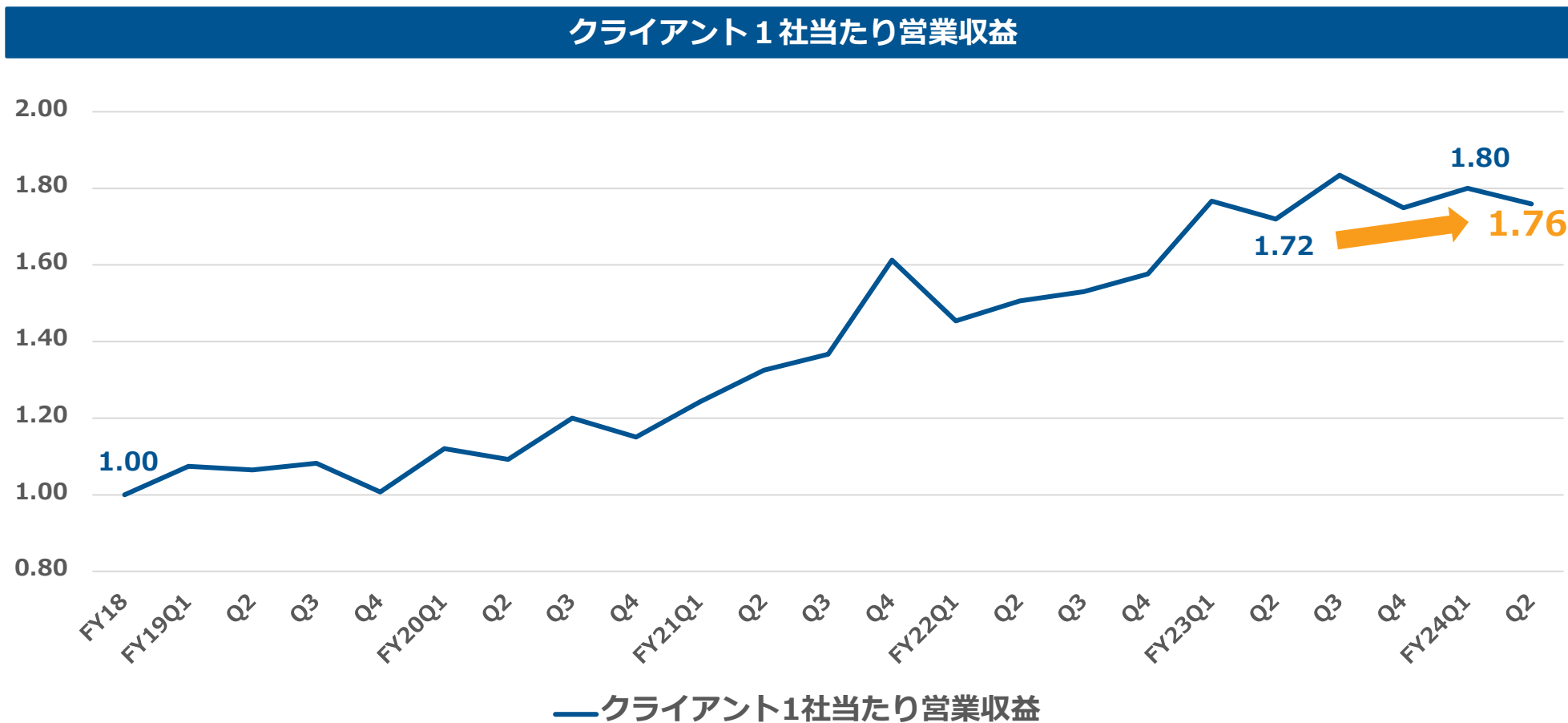
予算進捗状況

第2四半期(4-6月)は前年同期比で増収に改善し、通期予想達成を目指す

通期予算比			
(百万円)	2024年12月期 通期予算	2024年12月期 第2四半期	進捗率
営業収益 (売上高)	1,406	652	46.4%
営業利益	120	△10	-%
経常利益	121	△0	-%
当期純利益	83	△4	-%

KPI – クライアント 1 社当たり営業収益

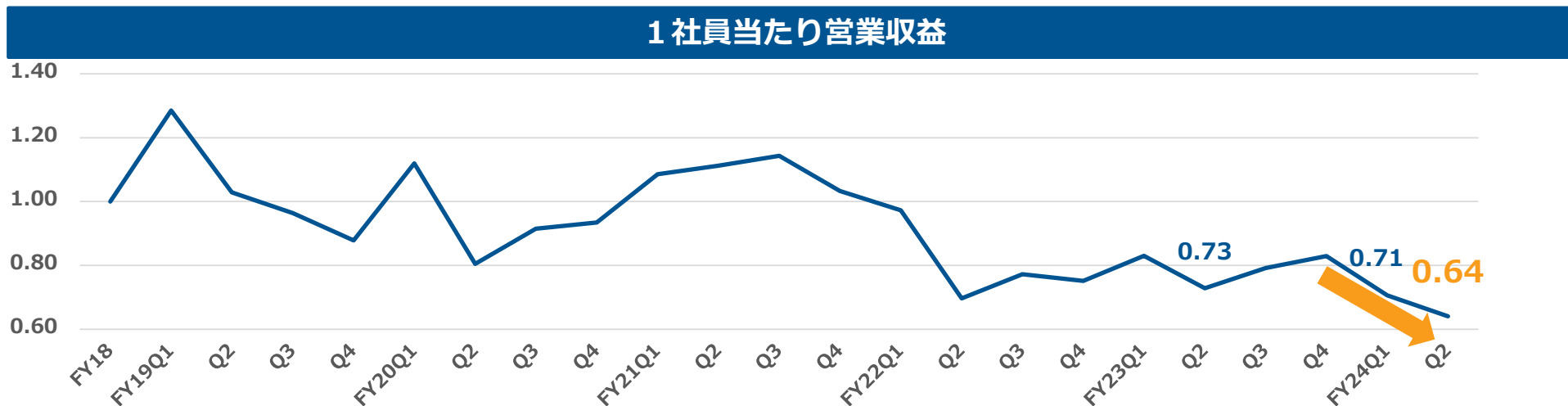
中大型案件の受注増等の影響により、前第 2 四半期1.72から1.76へ上昇



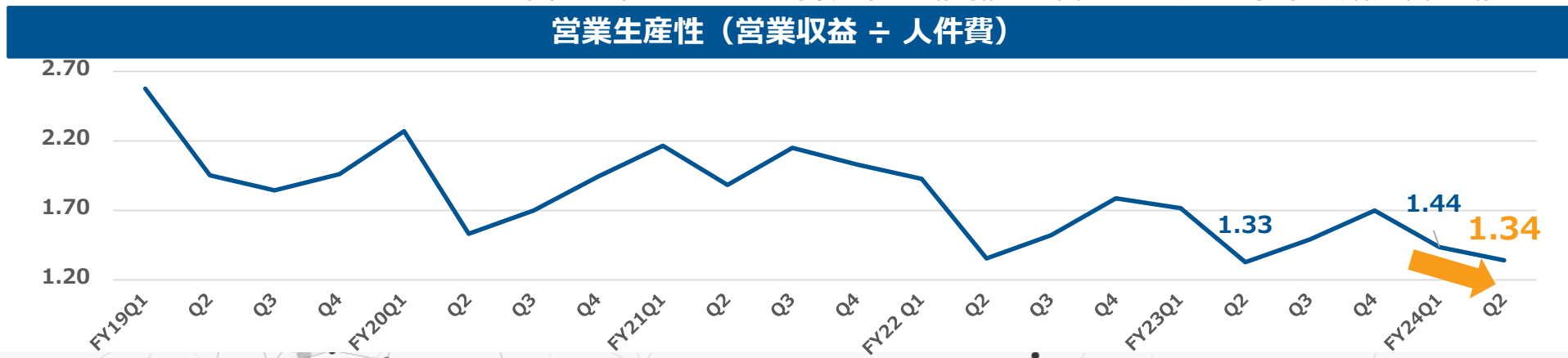
(注) 2018年度の各四半期を基準値「1.00」として各年度の各四半期の指数を算定

KPI – 1 社員当たり営業収益・営業生産性

1 社員当たり営業収益・営業生産性は、新卒入社による人数増により低下



(注) 2022年12月期の第4四半期よりソフトバンク株式会社への出向社員が増加したことにもとない、以降、出向社員を除いて算定



本資料に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料には、監査法人による会計監査や四半期レビューを受けていない情報が一部記載されています。

本資料に含まれる将来の見通しに関する記述は、現時点における当社の判断及び仮定並びに当社が現在利用可能な情報に基づき判断したものであります。そのためマクロ環境や当社の関連する業界動向等により変動することがあります。従いまして、実際の業績等が、本資料に記載されている将来の見通しに関する記述と異なるリスクや不確実性がありますことをご了承ください。

